



ベルマーク便りコンクール2020

優秀賞 岸野保育園

長野県佐久市の岸野保育園（鷹野正子園長、園児169人）は、過去10年の応募で、佳作4回と特別賞の成績を残しています。今年度は、コロナ禍の中、毎月お



便りを発行していることが評価され、見事、優秀賞に選ばれました。

活動の主体は、保護者有志のグループ「ベルちゃんず」の13人。20年ほど前、園の職員から活動を引き継ぎ発足したそうです。回収日は月1回で、会の2人が当番として回収作業と仕分けをします。集計はメンバー全員に呼びかけて年1、2回実施します。

お便りは、A4判1枚をメンバーが交代で作成し、毎月発行。季節や時々の行事にちなんだベルマーク商品を取り上げているのが最大の特徴です。また、その月の回収日時と場所は必ず掲載します。

回収日は子どもや保護者がベルマーク、カートリッジ、テトラパックを持参

します。マークを提出した子どもは、好きなスタンプを連絡帳に押すことができ、それがとても人気だそう。収集後は、当番の2人と作業に参加できるメンバーがマークを仕分けします。代表の櫻井恵美さんは「働きながらの活動は大変な面がありますが、楽しく作業しています。園や子どもたちのために少しでも役立てればという思いです」と話します。

会では、回収箱を園のテラス脇に常設。給食で出る牛乳のテトラパックは、職員が洗って乾かしますが、回収箱に入れる際には子どもたちが手伝ってくれることもあるそうです。

昨年の全国一斉休校時、地域では感染者が少なかったことから、同園は登園保育を続けました。「コロナだから活動を止めよう、という話は一切出ませんでした」と櫻井さん。とはいえ今冬は県内でコロナ感染が拡大。このため1月の回収日は収集場所を屋外のテラスに移し、人気だったスタンプ押しも中止しました。会は、感染対策を取り、できることを工夫して活動を続けているそうです。



特別賞 多治見市立精華小学校附属愛児幼稚園

岐阜県多治見市にある市立精華小学校附属愛児幼稚園（市原浩代園長、園児117人）が、初めての応募で特別賞を受賞しました。コロナ禍でいつも通りのベルマーク活動をするのは難しくなりましたが、時間に余裕ができたことを逆手に取り、お便りを作成しました。

保護者でつくる育友会の厚生委員会が、ベルマーク活動や資源回収、奉仕作業を担当しています。今年度は19人。いつもは年4回、子どもたち経由でマークを集め、仕分け作業をして年1回発送します。地元の公民館にも収集箱を設置しています。



新年度を迎えた昨年4月、コロナ禍で幼稚園も休園となり、委員会活動も休止を余儀なくされました。しかし「時間が生まれたおかげで、ベルマーク財団のホームページを丁寧に読み込むことが出来ました」と話すのが、委員長の杉村渚さん。委員会では今までベルマークに特化したお便りを出していなかったことから、「活動を保護者全員に知ってもらい、理解してもらおう」ため、新たに作成することになりました。

A3判用紙いっぱい情報に盛り込まれた「創刊号 ベルマーク」は、委員の木村奈実さんが「わかりやすく、読みやすく、親しみやすく」をモットーに、全て手書きで仕上げました。マークやお金の流れ、協賛・協力会社の説明、2019年度の購入品と集票点数、運動が始まったきっかけ……と盛りだくさんな内容。太字と細字、文字とイラストのバランスが良く、とても読みやすいです。

園にある掲示板もベルマークの周知に活用。「ベルマークをあつめよう!!」という台紙に、ベルマーク手帳の協賛会社紹介ページを順番に貼り出しています。

市原園長は「皆様のおかげで幼稚園に活気が生まれ、子どもたちが健やかに育っていることを実感している」と言います。コンクールの賞金の使い道は、資源回収で集めたアルミ缶を入れる箱の製作費。設計から製作まで、すべて保護者が担うそうです。



ボールやミシン、「カホン」も

財団からの支援品、ただいま活用中

今年度の東日本大震災支援対象校のひとつ、岩手県大船渡市立盛小学校（大和田典明校長、児童120人）から、支援で贈られたソフトバレーボールを掲げた子どもたちの写真が届きました。当たっても痛くないので学年を問わず人気のこの



また同校は支援で電子ミシンも購入し、5年生がエコバッグを作る学習で使う予定です。

今冬の大船渡は雪が多いとのこと、「昨年12月から10cmほどの積雪が何度もありました。例年と比べて桁違いです」と村上千賀子副校長。でも子どもたちは元気に雪の上を走り回ったり、雪だるまを作ったりしているそうです。

ペルー発祥の打楽器「カホン」を演奏する児童の写真を送ってくれたのは、福井

県立清水特別支援学校（細川裕校長）の原田由香里先生。四角い箱の上に座り、前面を手でたたく楽器です。今年度の財団からの支援で購入、「全ての音楽の授業で大活躍」だそうです。他にデジタルカメラなども購入し、この写真も実はそのカメラで撮りました。

小・中学部で14人の子どもたちと、福井南特別支援学校高等部清水分教室として6人の高校生が学ぶ同校は、県内では一番小さな特別支援学校だそう。「だからこそ、子どもたちの顔や名前、健康状態なども教職員間で共有し、安全・安心な学校生活をサポートできるよう心がけている」と原田先生は言います。近隣の学校との交流も盛んで、地域全体で子どもたちを見守っています。



神奈川県のある小学校から先日、ベルマーク財団に相談がありました。財団を介して毎月のようにベルマークを寄贈して下さる方がいるけれど、どんな方か知りたいというのです。調べてみると、寄贈は一昨年から始まったようです。初めは4万点弱のベルマークが財団に届きました。その後は毎月のように3000〜4000点ずつ送られてきています。いずれもきちんと仕分けされてきました。いったいどんな方なのでしょう。財団から連絡をとってみました。詳細については明かしてもらえませんでした。この学校の卒業生であることは教えてくれました。母校へのベルマーク寄

「私の慈善事業」

寄贈マークを巡る、あるおはなし

財団では、被災校支援などに活用している寄贈マークのほかに、母校など特定の学校にマークを送ってほしい、という申し出も受け付けています。ただ、そうした場合は、マークの仕分け・集計を済ませてからお送りいただくよう、よろしくお願い致します。

贈は「私の慈善活動」であるとし、お礼状のようなものについては「そういう事が目当てではない」ときっぱり。そして、これからも頑張るベルマーク運動をしていくとのことでした。学校にそのことをお伝えしました。卒業生が母校のためにしていることだと分かって「非常にありがたいです」と喜んでいました。

新入学おめでとう大会 オンラインで開催

新1年生となるお子さまとその保護者を対象にしたイベント「新入学おめでとう大会」（小学館主催、朝日新聞社後援）を紹介し、オンライン開催なので自宅から参加できます。参加無料。詳細は <http://t.asahi.com/ichinen> をご覧ください。申込締切は3月1日です。

小学校はどんなところか紹介する映画や交通安全の話、みんな大好きドラえもんショーなどのプログラムが組まれています。問い合わせは大会事務局（03-5315-0753、平日11時～17時）へ。



大台達成校

三ツ沢小	横浜市神奈川区	9,027,156
豊科南小	長野県安曇野市	5,010,553
都賀小	千葉県稲毛区	4,018,429
市原小	千葉県市原市	3,003,114
湖南小	長野県諏訪市	3,022,335
平岡東小	兵庫県加古川市	3,020,920
与野南小	さいたま市中央区	2,019,793
木の実幼稚園	松山市	2,027,595
第二福田小	岡山県倉敷市	1,005,794
春日野小	広島市安佐南区	1,004,824

